

生徒が自分の学びをデザインする

— 学びの入り口を示し選択肢を与え生徒が自ら学ぶ —

群馬県立 桐生清桜高等学校

テーマ

▶ 既習範囲

目的

▶ 個別最適化した学習の実施

今回は桐生清桜高校の小林先生にお話を伺いました。生徒が自分の学びをデザインする。何が分からなくて、どう出来るようになりたいのか、目的をしっかりとフォーカスし生徒にとってよりよい学び、本当に学びたいと思うことに対してしっかりと交通整理をしてあげるということをや心がけているそうです。

ICT教材について

先生になった当初は「教えなくてはいいいか、先生が強く、ICT教材が授業の代わりという感じがして、凄く抵抗感がありました。今は生徒全員がスタディサプリを使える状態では環境が整っているため、言われたからやるのではなくどう学びたいと思わせるか、どうやって学びをデザインさせていくか、ということに力を入れてあげた方が学びやすいのではないかと、思うようになったことが一番の転換期ですね。

スタディサプリ導入以前

問題集や確認テストをするにしても、生徒がどこで躓いて、何人が復習をしたかまで、細かくチェックした方がいいとは思っていましたが、紙教材でモニタリングするのは限度がありました。

この取り組みを始めたきっかけは、生徒が置かれていた環境の変化や自ら学ぶ環境が整い始めているというのを感じたこと。がきっかけでした。教科だけではなく、どういう学びが出来るか、自己開拓や自分のキャリアを考えることが大事だということも、しっかり教えていかなければと思います。

実際の取り組み

実際には学びの入り口部分を示してあげてそこからどういう形で学ぶかは、生徒に任せます。ただ、やらせっぱなしにするわけではなく、この分野は絶対に分かるとして一回教えただけだと分からないだろうなという時には宿題としてその課題を配信しています。そうすると確認テストの正答率が出てくるので、それを見て翌日に「昨日なんか全然出来てなかったけど、どこが分かっていたの？」と生徒に声掛け行っています。正当率で生徒が理解できていないのか、理解できていないのか、ひと目で分かるので、自分で確認するよりも工数がかかり削減できました。

生徒の変化感

私のクラスの生徒が質問に来ることがあります。以前は何か分からないか尋ねると「何が分からないか分からない」と尋ねると「何ですか、今も分からない」と尋ねると「たのしいです、今はここが分からない」と尋ねると「はつきり言える生徒が増えてきているな」と尋ねると「私も意識して積極的に話しているな」と尋ねると「私自身も勉強が出来るようになってきました。今の自分の力がどのくらい伸びたか、努力すべき総量というのが多いので更に成績を伸ばすために何をどのくらい勉強すべきか、努力すべき総量というのが多いです。数学でも例題や応用問題があるものを全部やるのではなく、自分の苦手な部分を把握しようとなっていて、勉強しているのだらうなと思えます。

実際の取り組み

毎授業後、数学の復習・補填として「動画+確認テスト」の課題配信



※基本的には任意提出。
必ずやってほしい課題のみ必須として配信

① 学びの入り口や選択肢の1つとなるように



スタディサプリだけでなく、参考書からyoutubeまで、学習教材や勉強方法は、生徒自ら使いやすいものを選び学習

② 正答率から授業の理解度測定や個々の生徒の躓きの早期発見に



群馬県立桐生清桜高等学校



【学校情報】

桐生南高校と桐生西高校の統合により、20年11月設立。21年4月より開校。全日制 普通科160名。普通科アドバンス探究コース80名。計240名在籍。進学重視型単位制を導入。22年度進路実績、大学168名、短大12名、専門学校92名、就職46名、計318名卒業。